

現場支援チームの取り組み

建設ICT導入普及研究会

現場支援チーム

【中部技術事務所】

技術者育成の取り組みについて

講習会の目的

国土交通省では、施工の効率化・品質の確保・安全性の向上・コスト縮減を図ることが出来る建設ICT技術の普及・促進に取り組んでおり、情報化施工の主な技術の一般化を目指している。

それら技術のうち、コストの縮減が図られ、施工実績が5割を超えている**TSによる出来形管理技術(土工)**が、平成25年4月1日から**使用原則化**された。

TSによる出来形管理技術の使用原則化により、今後ますます監督職員が携わる機会も増え、技術力の取得が必須となっていく状況である。

自らTSに触れて、出来形管理を行うことで、TSを用いた出来形管理の監督・検査について学ぶことを目的に、座学と実機(TS)を活用した実習を内容とした講習会を、出張所係長を中心とした職員を対象に開催している。

なお、建設ICT技術は日々進化していることから、建設ICT導入普及研究会プロジェクト会員等に、ご協力をいただき、実習には、最新のTS機器を使用している。

講習会の内容

開催日：平成27年1月15日・16日の2日に分け、中部技術事務所において開催

受講者数：愛知(8名)、岐阜(4名)、三重(3名)、静岡(8名)、長野(1名)、本局(6名) 計：2日で計30名

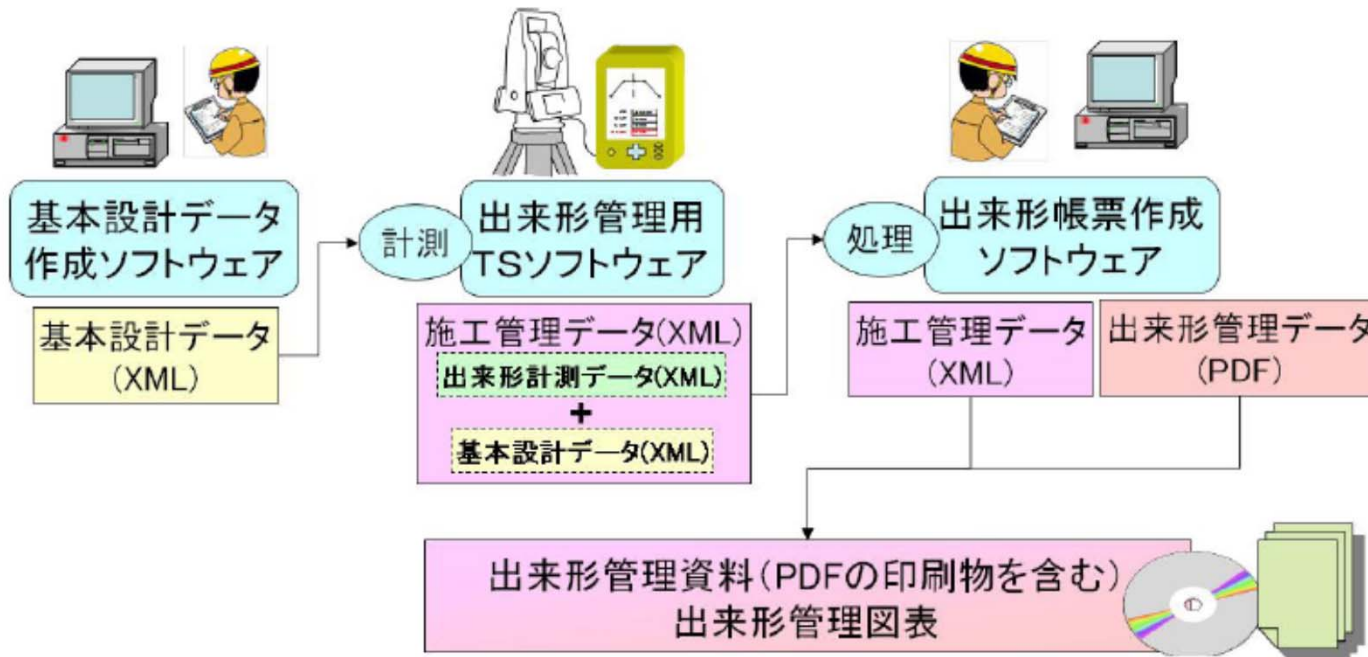
【座学】(午前2時間)

- ・TSによる出来形管理技術に適用する技術基準及び概要説明
- ・TSによる出来形管理技術を活用する工事における監督・検査の流れ
- ・受注者及び発注者が実施すべき内容、実施にあたっての注意点について説明

【実習】(午後2時間)

- ・実機(TS)を用いて、TSの設置から監督・検査におけるチェックポイント等を実習

TS出来形管理技術講習会の実施



TSを用いた出来形管理の流れ



実機(TS)を用いた実習状況

実機(TS)を用いた実習後、位置座標を元に、電卓を用いて距離を算出し、TSの利便性を実感

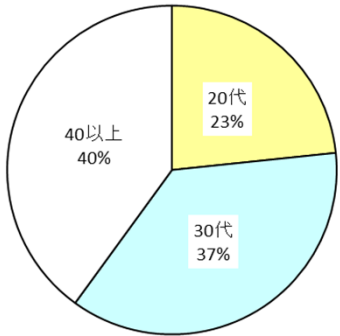


座学実施工況

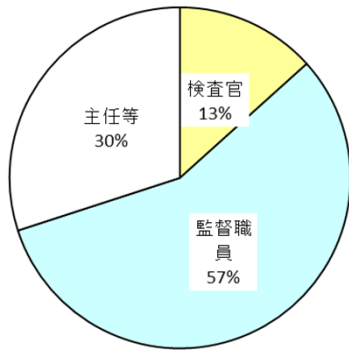
TS出来形管理技術講習会の実施

講習会のアンケート結果

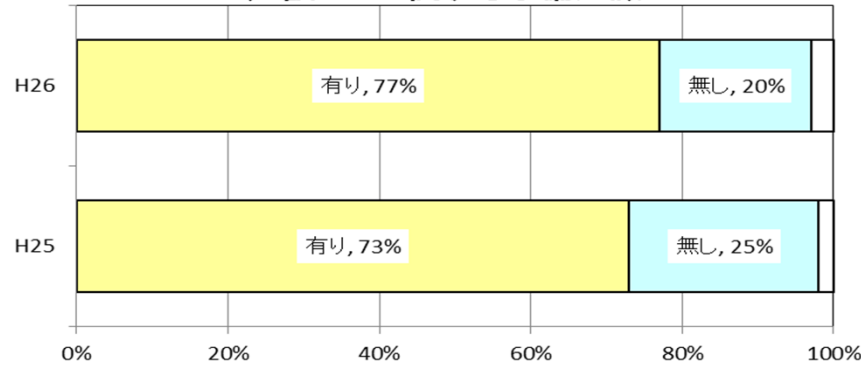
年齢構成



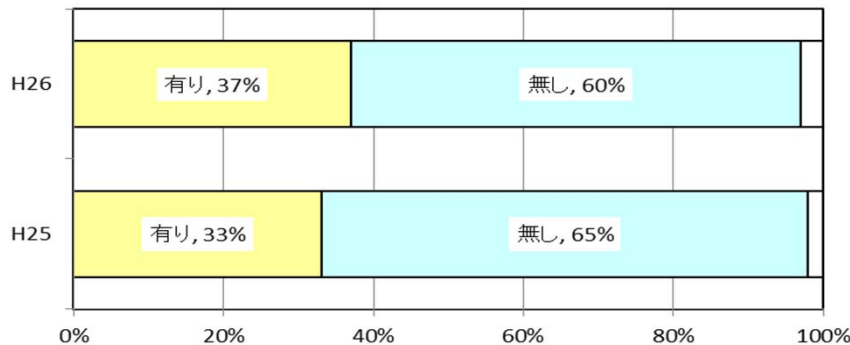
役職構成



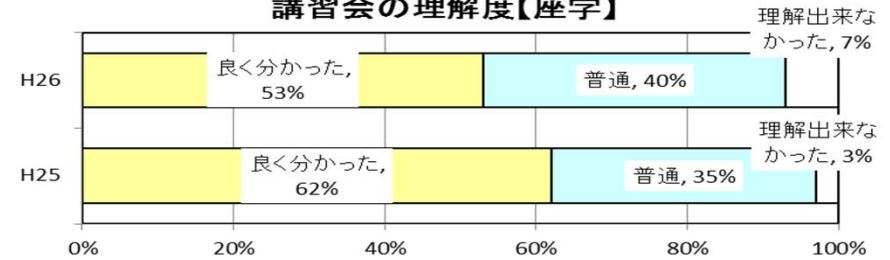
建設ICTに関する予備知識



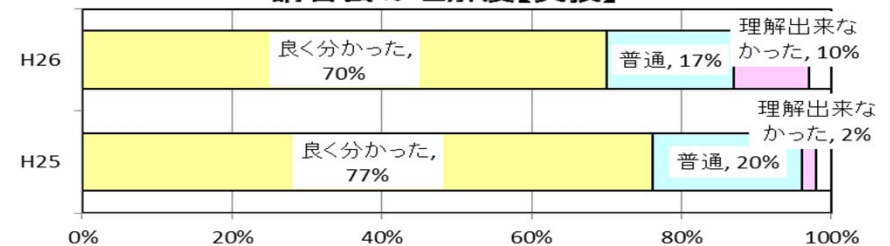
職務を通じた情報化施工の経験



講習会の理解度【座学】



講習会の理解度【実技】



講習会【座学・実技】の理解度は、平成25年度と比べ若干低下した。
職務を通じた情報化施工の経験は、平成25年度と比べ微増(4%)にとどまっている。

□主な意見

- ・1回の参加だけでは理解出来ないため、複数回の経験(受講)が必要
- ・監督者の目線から講義をしていただいたので良かった
- ・建設ICTの全体計画の説明が必要

講習会の開催にあたりまして、建設ICT導入普及研究会プロジェクト会員の(株)前田製作所さま、(株)シティーエスさま、(株)福井コンピューターさま、(株)NTジオテックさまに、実習での講師及び機材の手配等のご協力をいただき、成功を収めることが出来ました。この場をお借りして御礼申し上げます。